

## おどろきモモの木クリニック・パートXV



宮本秀明●宮本皮フ科（横浜市磯子区）

### 1. 「混んでますか？」

受付に「どのくらい待ちますか？」という電話が時々かかって来る。しかし、「待つ」のは患者さんではなくて、実は来院患者を待つ私自身なのだ……。わが診療所の1日の大部分は待合室には誰もおらず、時々自動ドアが開く音が静寂を破り、うたた寝中の私を眠りの世界から引き戻す。

そこで詠める歌……。

人來たと 目にはさやかに 見えねども  
ドアの音にぞ 驚かれぬる

### 2. マンモスびっくりしたピー

某女性タレントが6日間失踪してたのは、体から覚醒剤を「抜く」ための時間稼ぎだった。お蔭で尿検査は陰性だったが、毛髪検査はクロと出た。もし頭を丸めツルツルに剃り「出家してお詫びします」とでも記者会見で頭を下げればファンも納得させられたかも知れないし、陰毛も産毛も剃って出頭すれば調べようも無かろうに。

### 3. さよなら××銀行

昼休みに金の出し入れに最寄のA銀行に行くとATMは長蛇の列である。しかし銀行側はATMの台数を増やす気配すら見せず、「嫌なら利用しなきゃいい」と言わんばかりの態度である。このような場合、文句を言うより「利用しなきゃいい」のである。たまたまB銀行（ここは無人店）を覗いてみるとATMは4台しかないのにガラガラである。うーむ、無人店だと機械の扱いをアシストしてくれる親切な「銀行のおじさん」もいないので(文字通り無人店！)

列の流れを遅くする元凶の「機械の扱いに不慣れた老人」は寄り付かず、長蛇の列にはなりにくいのだ……と気付いて10数個あった口座振込みと引き落としを早速A銀行→B銀行（無人店）にすべて変更し、A銀行には足を向けなくなったところ、金銭の出し入れ時のストレスは皆無に近くなった。

もし、ATMを複数台置いた無人店が近くにない場合でも心配無用である。金融機関は最寄の〇〇銀行と郵便局だけではないのである。ネット銀行も現在国内に8つある。これを利用すれば金の出し入れだけならコンビニで手数料かからず出来るし、取り扱い時間も〇〇銀行よりずっと長い。

### 4. 和訳が悪いか、元が悪いか①

ア。「東京は世界で最も大きな都市の1つです」……こんな有り得ない和訳を教えるから純粋な日本の青少年は英語を学ぶ気が萎えるのである。「最も大きな都市」なら元々1つしかない筈なのだから……。正しくは「東京は世界最大級の都市の1つです」。

イ。「I am a boy.」……見りゃ判るだろ、いちいち言わなくて。オカマの鑑別法でも教える気かい。

ウ。the United Nationsは「国連」のことであるが、「連合国」という意味もある。後者は第2次大戦でのわが国の敵国を意味する。ちなみに第1次大戦後に創られた国際連盟はthe League of Nationsである。何故「国連」＝「連合国」になるのか小生には理解し難い。

### 5. シューカツ！

M氏のS令嬢も大学に入ったかと思ったら、あっ

という間に3年生。多分に洩れず、就活の洗礼を受けることと相成った。少しはマジに取り組んでいるかと思いつつ、M氏が部屋の片隅に視線を投げればショートカットの「堀北真希」が表紙の就活本が放り出している。表紙がもし倅田來未なら「キャバクラ就活」だね、なんて思いながらページをめくると同一人物の3つの顔写真が載っておりそれぞれ、手抜きメイク、ギャル系メイク、就活プリンセスメイク(これがベストらしい)の見出しつきである。ギャル系メイクには「流行のラメラメ囲み目はNG」のコメントと「こういう女性はイイ加減そう。仕事を頼む気がしない」なんて解説もついている。以降は「目力アップのアイメイク」「健康チーク」「上品リップ」などと続く。

ある日M氏が「今日の就活は新宿辺りだが」と思いを馳せた時、方向音痴のS嬢から電話が入った。「JR××駅にいるんだけど地下鉄丸ノ内線の乗換え口は何処?! ~??」電話で聞かれても答に窮するがこれをなんとか解決して10分ほど経つとまた電話。「××ホテルって何処?」「都庁の向かい側だよ」「都庁ってどんな建物?」んーん、都庁を知らないのか、ジャニーズのイケメンタレントの番組ばかり見てるんじゃない! と腹を立てつつも、インターネットで探し当てた都庁のHPをケイタイのカメラで撮り、S嬢に送信したM氏であった。

## 6. お節介なアナウンス

土日に高速道路を利用して片道100キロほど走ることが度重なったので、思い切ってETCの機械をクルマに装着した。するとエンジンをかける度に「カードが入ってます」「カードの有効期限は×年×月×日です」などと女性の声で車内にアナウンスが流れるようになった。五月蠅いのでETCを利用すまいと思い、カードを引っこ抜いて走ったところ「もうすぐ料金所です。カードが入ってないのでETCは利用できません」(わかってるわい!)などとまたアナウンスが流れてイライラすることこの上ない。そこでクルマのトランクに放り込んであった取扱書を取り出して読みながら、ハンドルの横に装着してあるETCの機械を操作したところ、アナウンスの大部分は止めることが出来た。しかし、エンジンを止めた時の「カードが残ってます」だけは止める事が出来ない。なんとかならないものかねー。

## 7. 和訳が悪いか、元が悪いか②

米国リンカーン大統領のゲティスバーグでの演説「人民の、人民による、人民のための政治」……カッコいいフレーズだが、最初に聞いた時に何となく妙な気がした。よく考えると最初の「人民の」という意味が良くわからぬ。「実は最初のofはforあるいはbyと意味が重複してるのである」と20歳頃、某英語教師から聞いて納得がいった。

小学校の頃読んだ偉人伝では「リンカーンは奴隷解放を行った立派な人」と記してあったが、彼が今でも尊敬されているのはそのためではなく、南北戦争で分裂しかけた米国を1つにまとめたからなんだそうである。

当時「奴隷解放宣言」を聞いて喜ぶどころか不安になった黒人は少なくなく、白人の農場主の所へ押し掛けて「旦那、私らは明日からどうすりゃいいんですか」と不安そうに尋ね、「居たければ、今までと同じようにここで働いていて構わないんだよ」という農場主の言葉に安堵の色を浮かべて自分の小屋に戻った者も少なくなかったと言う。

## 8. 愛のかたち

小生が小学生の頃、映画やテレビに登場して来る「愛人」のイメージは「マンションに住み、真昼間からネグリジェを着たままでブランデーをあおる女」であり、決して「古びた木造家屋に住んでTシャツ着たままチューハイを飲む女」ではなかった。

浮気がばれるきっかけのNo.1はケータイメールをチェックされることなんだそうであるが、防御法はないことはない。受信メールを読んだら即削除し、重要項目は削除直前に「コピー機能」でケータイの「メモ帳」に暗号風に記録しておけばよい。

寝言で女の名前をついうっかり口に出してしまうのもばれるきっかけになり易い。これを防ぐには女性と会っている時も相手の名を呼ばず、「田中」とか「吉田」とか仮の名で呼んでいれようっかり口に出してもばれにくい。ケータイのアドレス帳にも「A社の田中」とか「B社の吉田」というように、別名で登録しておく。

しかしアドレス帳への登録はともかく、女性と会っている時「田中」や「吉田」ではムードが出ない、とお嘆きの声が出るのもごもつともである。それならば、キャバ嬢の源氏名だって本名ではないの

だから、可愛らしそうな名を勝手に付けて呼べば良い。それも過去のヒット曲のうちから「ゆうこ」「さちこ」「じゅんこ」「かおる」「しのぶ」とかが良い。そして時々カラオケの練習をする。曲目は「そんな夕子に惚れました」「サチコ」「Sachiko」等を選んでおけばモアベター（オバチャマ亡くなったねー）である。パツキンが好きな御仁には「リンダ」「ナオミ」「マリー」とかのバリエーションもある、という具合に名前は選び放題である。このような準備

をしておけば、寝言で女の名前をついうっかり口に出しても「カラオケの練習のし過ぎ」で済む。

……と安心していたら、クレジットカードの請求書が届いた。開いてみると利用し始めたばかりのETCの明細が書いてある。「×月×日、××インター、××円」「△月△日、△インター、△△円」……ガビーン！ クルマで立ち寄った先がわかってしまうのではないの。これじゃ、別宅へ行く時は愛車が使えないよ〜ん。

## 片足棺桶



### 内山光明●内山皮フ科（横浜市磯子区）

「神皮」第1号に医者と坊主の間でという文を書いたが今回は自分がお経を読まれるかどうかという羽目に陥ってしまった。2005年には脊椎管狭窄症になり、手術を受けてリハビリで苦しんだ一文を本誌に載せてもらったがあんなものは命に別状はない。まあ、人間65才を過ぎるとこれまでの無理がたたって色々とガタが出てくるが今回は食道〇〇という病気である。〇〇には縁のない血統であると思っていたらいること、親父はじめ、次兄、長兄、みんな〇〇で永眠している。次兄はお見事で、喉頭、食道、上咽頭〇〇と良くも出てくるものと思うくらい数年おきに思い、65才を迎える前に永眠している。蛇足であるが、「亡くなる」という言葉は敬語になり身内には使わないというのが本来であった。最近はこのような敬語の使い方は誠に曖昧になっており、診療所の患者様にも、「この次は何時いらっしゃったらよいのですか」いう人もいてそれは流石に、その言葉の使い方は間違いですよと訂正している。その様な言い方は女性に多い。亡くなったというのは、家族内で嫁さんが夫の親が死んだとき、夫の肉親にいうのは差し支えないが第三者には

永眠しましたとか死亡しましたと伝える方がよいとされる。まあ死者に敬意を表し（神仏となる、天に召されたわけであるから）亡くなったでも良いかも知れない。あんまり気にすることもないであろう。「おっ死んじまった」は何ともユーモラスな感じがする。英語では、passed awayという。さりげなく優雅な響きである。

さて、内山の片足棺桶の始まりであるが、一昨年12月はじめ、横浜市医師会の役員忘年会で日本酒の飲み比べをやり、そのときは何でもなかったが2日後自宅で飲んだ明るる日、二日酔い症状があり吐いたところ相当多量の吐血があった。同時にタール便も排出した。検査でHbで2位下がっている。1〜2ℓは出ているぞ。その年は特別に多忙で365日の3分の2は何らかの会合があるという生活であった。更にその半分はアルコールが伴っていた。70才を過ぎた身には過労かなと思うのであるが疲れを余り感じない性格なので自分では平気だと思っていた。ともかく、胃潰瘍か、静脈瘤が大出血の原因である筈である。マロリーワイス症候群というものもある。急激に嘔吐したときに食道に裂傷を生じ、



時に大量出血する疾患である。自覚症状、状況などから多分これだと思ひ近所の内科を受診し、出血が異常であるからともかく内視鏡で見ましようということになった。内視鏡は患者としては初めてである。海上自衛隊医官のころ初めてファイバースコープが出来、外科に属していたのでドクター同士お互いに試験台となって飲み込んだ経験はある。直径12mmくらいあり苦しかったことを覚えている。噴門を初めて覗き、見える見えると感激したものである。今はテレビカメラ内蔵で管も細く楽なものである。検査中に観察医の雰囲気が変わった。付き添ってきた妻と何か相談している。本人に伝えましようか、どうしようかという話であった。伝えましようかという判断で食道下部に腫瘤があることを告げられた。これはどう見ても〇〇だな。しかも小さくない。丁度食道の約3分の1を占めている。とってそれほど大きくないので食物の通過障害はない。自覚症状は全くない。静脈瘤の小さいものもある。これは早速大学行きだということで浦舟町の消化器病センターを紹介され本格的検査と治療にはいることになった。食道専門の医学部クラスメートに見せても〇〇は間違いはないという。病理組織も扁平上皮であることが判明し入院治療のお膳立てが整えられた。12月であるので忘年会シーズン、12月7日の神奈川県皮膚科医会（川崎）はまだタール便等治まらず、やむなく欠席したがそのほかの主な忘年会には平然と出席した。勿論酒は飲めない。新年会も大学皮膚科学教室行事として参加した。磯子区医師会新年会は当番副会長として進行司会を取り仕切った。まさかそのときの内山が食道〇〇であるとは誰も気づかなかつたらう。副会長として多くの新年会に出席しなければいけないがそれは交代してもらった。

2009年1月17日、浦舟町の消化器病センターに入院した。入院中の診療所は後輩の先生達に応援を頼んだ。この場も借りて深く感謝する。誠に有り難うございます。

肝機能が悪くオペは無理というので放射線と化療でたたくこととなった。放射線治療も線源は20年前のリニアックであるが方法が違う。じれったいくらい慎重である。線量も目標の60Gyまではやらず55Gyで終了とした。放射線照射の前にシスプラチンを入れて〇〇細胞が弱ったところをたたくという方針である。約2ヶ月あまり。ゆっくりである。こ

れで効かなかつたらお手上げである。放射線は二度はやらない。昔は二度やって、結局不幸な転帰になることが多かつたので今はやらないという。55Gyで終了としたのも、〇〇の位置がヘルツと重なりヘルツに負担が掛かると良くないのでそうになった。放科の先生に「もう一押し」と頼んだら「だめ！」と即答された。「10年後のミオカルド、治療中のヘルツタンポナーデなどがある」と脅かされた。ヘルツの先生に聞くと症例報告的ではあるが無いことはないといわれた。

入院中は多くの先輩同輩後輩から励ましとお見舞いを頂いた。浦舟のスタッフには雑用をお願いしたり、福浦のスタッフにもお見舞い連絡を頻回もらった。同級生のK先生は食道の専門家であり多くのサゼクションをもらった。傑作なのは内山の妻に、内山のやつ、盗み酒していないだろうなどと注意があったことである。親友はありがたい。海上自衛隊同期の桜のS先生、放科のエキスパートであるが遠方からわざわざ横浜まで数回来てくれて色々助言をもらった。大学時代の同僚看護師諸君も情報が入つたらしく大勢見舞いに駆けつけてくれた。新潟のAさんにもハッパをかけられた。彼女たちの情報の早さはコンピューターも真っ青である。合わせて皆様へ感謝。一番心配かけ、心配してくれたのは妻である。病気でなくても何をやらかすか判らない内山が不治の病となったのにはびっくりしただらう。流石は看護師、冷静に自分の病気を押して面倒見てくれた。まだまだ世話になる。感謝。

2009年3月末退院。4月上旬内視鏡生検。腫瘍は小さくなつたが少し残存？ 〇〇細胞はポジティブと出た。このあたりが微妙なところで、放射線終了が3月13日。生検が4月9日、ほぼ4週間経っているから〇〇細胞はまもなく消えるはずである。しかし陽性は陽性であるから次の化療の計画がなされた。ドセタキセル、シスプラチンの併用。

5月中旬に入院し、第1回は体表面積フルドシスでやったらワイセが700まで下がってしまった。検査室で取り損ないであらう、もう一度採血といわれたくらい下がった。ノイトロジンという好中球をあげる注射があり、それをつかってどうやら快復し退院となった。

6月は2/3ドosis、まだ下がる。ノイトロジンの世話になりどうにか退院。このころ内山と同時

期に治療に入った同病の知人ドクターの訃報が入り愕然とした。

7月はじめの神奈川県皮膚科医会（関内新井ホール）はどうやら顔を出すことができた。7月入院は1/2ドース。これは軽すぎる。予定通り退院。7月末生検。今回は〇〇細胞ネガチブ。変性細胞はある。しかし内視鏡所見、どうも安心できないという主治医K教授の意見。9月24日、内視鏡手術、レーザーの一種らしいが焼灼手術。これが結構熱い。食道は痛覚はないので痛くはないが温冷感覚はあるらしい。表面の怪しいところは全部焼いた。さて次なる化療である。10、11、12月と約2週間入院、2週間退院のパターン。DOC、CDDP、90mgトータル。2/3ドース。ワイセは1100くらいで収まった。12月の神皮医会は入院中で出席できなかった。12月末生検。内視鏡所見改善。生検。2010年1月、生検の結果腫瘍細胞無し。万歳と思ったらCTで左胸水貯留。ぎょっ！ 〇〇性胸膜炎の可能性も否定できないと脅かされた。まさか。TBではないと思う。CRP、0.070だよ。早速試験穿刺、漿液性で安心した。ラシックス40mg/日内服で1月14日大分引いた。

2010年2月13日、放射線科診察。O先生。腫瘍消失ですね。もう良いでしょうとのこと。あとは重粒子線だがこれもリニアックのあとだと無理かも知れない。

2月18日、左胸水僅かに貯留。3月7日の神皮医会は出席。9日にCTを撮り、3月15日から入院中でこの文をワープロでたたいている。化療は前回と同じ。

表題の「片足棺桶」であるが江戸時代からの表現で、一つは老人に対する皮肉である。「あの爺、棺桶に片足をつっこんだ様な年しやがって生意気につべこべいいやがる」、というような表現に用いる。もう一つは不治の病に冒されたとき、「あいつもいよいよ棺桶に片足つっこんだな」、というように用いる。これも高齢者に良く用いられる。もう一つはかなり特殊であるが、社会的（つぶれそうな会社に再建に入った場合など）、或いは精神的に大きな負担があり、半病人のようになったときに、「あいつも変なことで棺桶に片足つっこみおって、早く抜けだせるよう助けてやらないといけないな」、というようなときも用いる。内山は病気のための片足棺桶である。のんびりというか、図太いというか、呑気な性格なので幸いまだ生き延びている。まずは1年、更に1年という生活が続くといわれた。地獄の方もまだあんなやつが来ると困ると思ってか地獄の釜のふたはまだ開いていないようである。本誌の出る2010年7月4日の神奈川県皮膚科医会では、まだ酒は飲めないであろうが皆様と歓談できることを楽しみにしている。以上、以下次号？

